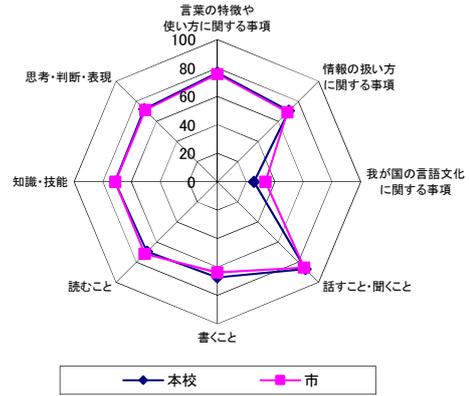


宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	76.7	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	70.6	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	25.5	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	86.9	85.5	86.5
	書くこと	67.3	63.9	65.8
観点別	読むこと	69.6	71.6	69.5
	知識・技能	71.5	71.3	72.9
	思考・判断・表現	72.2	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

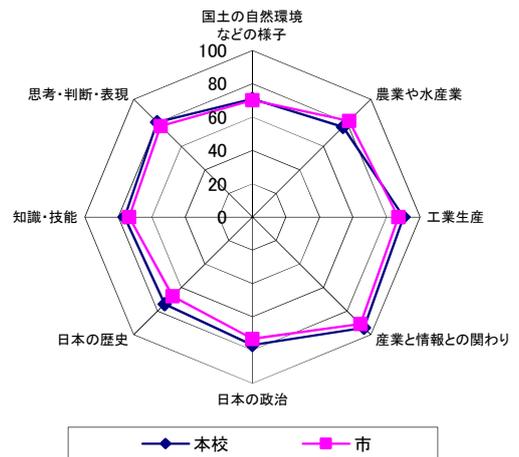
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は76.7%で、市と同程度である。 ○第5学年に配当されている漢字「支える」を書く問題では、正答率が86.3%であり、市の平均より10.5ポイント高い。 ○敬語の使い方を理解し、正しく使う問題では、正答率が76.5%であり、市の平均より3.4ポイント高い。 ●第6学年に配当されている漢字を読む問題では、正答率が1問のみ60.8%であり、市の平均より16.2ポイント低い。 ●熟語の成り立ちが同じ組み合わせを答える問題では、正答率が62.7%であり、市の平均より4.5ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字のもつ意味や使い方等を教えるとともに、熟語の意味や成り立ちを調べさせ、語彙を増やす活動を設ける。 ・漢字ドリルやAIドリルを活用して、既習漢字の練習を家庭学習等で行うようにする。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は70.6%で、市と同程度である。 ○二つの情報のうち、結果を表す文を答える問題では、正答率が70.6%であり、市と同程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文や報告文など様々な文章に触れさせ、自分の言葉を情報を整理したりまとめたりする機会を多く設けるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は25.5%で、市と比べて8ポイント低い。 ●和語・漢語・外来語の組み合わせになっているものを答える問題では、正答率が25.5%であり、市の平均より8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年時に学習した和語、漢語、外来語について復習する機会を設ける。さらに新出漢字の練習で、音読み・訓読みを意識させながら、成り立ちや由来について触れるようにする。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は86.9%で、市と同程度である。 ○話の内容を捉える問題では、正答率が100%であり、市の平均より2.8ポイント高い。 ○意図に応じて、質問を工夫する問題では、正答率が94.1%であり、市の平均より4.8ポイント高い。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、正答率が66.7%であり、市の平均より3.1ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動において、話し合いの目的を明確にするとともに、話し合いの準備段階において、自分の考えの根拠や質問されるであろう点などをまとめる時間を設ける。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は67.3%で、市と比べて3.4ポイント高い。 ○指定された文字数で文章を書く問題では、正答率が78.4%であり、市の平均より8.6ポイント高い。 ○二段落構成で文章を書く問題では、正答率が72.5%であり、市の平均より6.7ポイント高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙の定着や文章構成の理解を深めるため、「書くことキャンペーン」を継続的に実施する。 ・自分の考えをまとめる際は、複数の情報をもとに考えさせたり、根拠を明確にさせたりするなど、感じたことや思いだけの記述にならないよう指導する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は69.6%で、市と比べて2ポイント低い。 ○説明文において、文章の内容と合っている要旨を選ぶ問題では、正答率が54.9%であり、市の平均より4.3ポイント高い。 ●登場人物の様子について説明している描写として正しい文を選ぶ問題では、正答率が78.4%であり、市の平均より5.2ポイント低い。 ●説明文において、整理した情報の一部を文章で答える問題では、正答率が54.9%であり、市の平均より6.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本や文章を読む機会を確保するとともに、文章中の重要な語句を探したり、内容を要約したりするなどの活動を通して、要旨を把握する力を高める。 ・物語文を扱う単元では、文章中の叙述をもとに登場人物の気持ちや様子を読み取ること意識した授業を展開する。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.0	70.3	66.4
	農業や水産業	76.5	81.6	75.3
	工業生産	90.2	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	94.1	91.0	81.3
	日本の政治	77.0	73.2	75.3
	日本の歴史	74.0	67.4	68.5
観点別	知識・技能	76.2	73.5	72.5
	思考・判断・表現	80.4	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

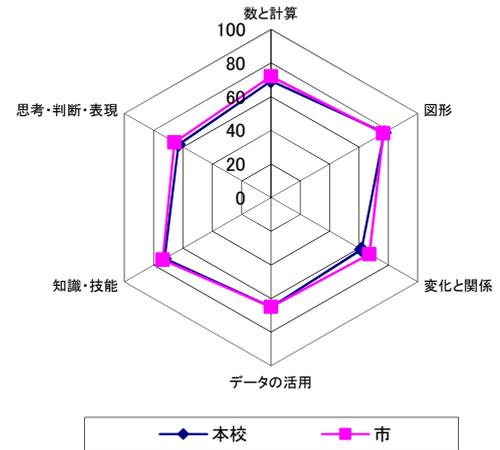
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>領域の正答率は71.0%で、市と同程度である。</p> <p>○赤道について理解を問う問題は84.3%で、市の平均より16.5ポイント高い。</p> <p>●人工林の役割を問う問題では、正答率が72.5%であり、市の平均より7.5ポイント低い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・知識として教えるだけでなく、人工林と天然林を比較し、役割の違いについて調べたり考えたりさせて理解を深められるようにする。</p>
農業や水産業	<p>・領域の正答率は76.5%で、市と比べて5.1ポイント低い。</p> <p>●米の生産が盛んな地域を問う問題では、正答率が78.4%であり、市の平均より5.3ポイント低い。</p> <p>●米の品種改良についての理解をもとに、表現を求める問題では、正答率が58.8%であり、市の平均より7.5ポイント低い。</p> <p>●魚の出荷作業における工夫を問う問題では、正答率が92.2%であり、市の平均より2.7ポイント低い。</p>	<p>・授業だけでなく家庭学習でも都道府県の位置や地域区分についての学習を繰り返し行い、知識の定着を図る。</p> <p>・表やグラフなどの資料から読み取った情報について書きまとめる活動を積極的に行い、情報を正確に読み取り、適切に表現する能力の定着を図る。</p>
工業生産	<p>・領域の正答率は90.2%で、市と比べて3.2ポイント高い。</p> <p>○日本の貿易の変化について、資料をもとに表現する問題では、正答率が82.4%であり、市の平均より5ポイント高い。</p>	<p>・表やグラフなどの資料から情報を読み取る活動を丁寧に行い、繰り返し練習することで、継続して資料活用能力の定着を図る。</p>
産業と情報との関わり	<p>・領域の正答率は94.1%で、市と比べて3.1ポイント高い。</p> <p>○情報の発信と受信の注意点を問う問題では、正答率が94.1%であり、市の平均より5.1ポイント高い。</p>	<p>・情報が社会に与える影響や責任を多角的に考え、実際の生活場面で情報を適切に選択・活用できる実践的な力を養えるよう、指導を行っていく。</p>
日本の政治	<p>・領域の正答率は77.0%で、市と比べて3.8ポイント高い。</p> <p>○法律ができるまでの流れについて問う問題では、正答率が80.4%であり、市の平均より4.5ポイント高い。</p> <p>○租税の役割を問う問題では、正答率が80.4%であり、市の平均より13.4ポイント高い。</p>	<p>・国会が国民の代表機関として果たす役割や税が公共の福祉を支える意義を資料から多角的に捉えさせることで、主権者として社会に参画する資質・能力を育むことができるよう、指導を行っていく。</p>
日本の歴史	<p>・領域の正答率は74.0%で、市と比べて6.6ポイント高い。</p> <p>○能についての理解を問う問題では、正答率が78.4%であり、市の平均より18.3ポイント高い。</p> <p>●織田信長の業績を問う問題では、正答率が62.7%であり、市の平均より8.0ポイント低い。</p>	<p>・それぞれの時代の重要な人物について、行った政策や人物相互の関連を押さえる指導を行い、理解を深めさせていく。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.3	72.1	74.6
	図形	77.1	76.5	76.1
	変化と関係	61.6	67.1	59.7
	データの活用	65.1	65.0	64.5
観点別	知識・技能	72.5	73.8	74.7
	思考・判断・表現	63.0	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

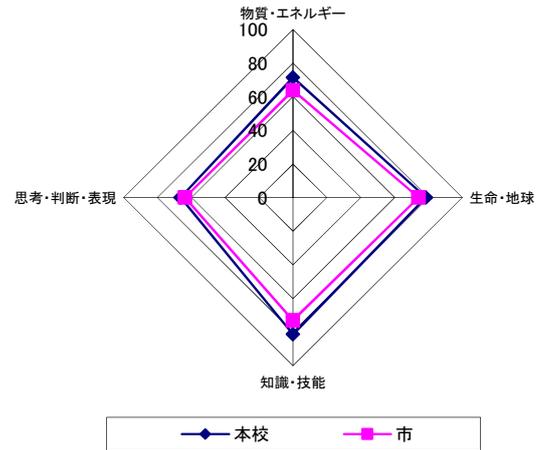
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は69.3%で、市と比べて2.8ポイント低い。 ○2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、正答率が80.4%で、市の平均より10.2ポイント高い。 ●真分数+真分数=真分数で、片方の分母にそろえる通分をする(約分あり)の問題では、正答率が66.7%で、市の平均より10.0ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリルやAIドリルを活用した反復学習を継続し、特に文字を用いた式の代入操作など、数量関係を正しく処理する技能をさらに伸ばしていく。 ・異分母の加法において、最小公倍数を見つける「通分」から計算結果を簡潔にする「約分」までの一連の手順を、補助教材や視覚的な図を用いて繰り返し練習し、定着を図る。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は77.1%で、市と同程度である。 ○点対称な図形の、対応する2つの点を結んだ直線の長さについての問題では、正答率が92.2%で、市の平均より8.3ポイント高い。 ●平行四辺形の面積を求める式についての問題では、正答率が70.6%で、市の平均より4.6ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を180度回転させた時の重なりや対応する点の位置関係など、頭の中で図形を動かして考える力を、ICT端末の操作や図解を通してさらに伸ばしていく。 ・平行四辺形の面積において、「底辺」と「高さ」がどこを指すのかを正しく見極める力を養い、公式を丸暗記するだけでなく、図形の仕組みを正確に捉える練習を繰り返す。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は61.6%で、市と比べて5.5ポイント低い。 ○1冊あたりの値段を計算し、どちらのセットが安いか理由を述べる問題では、正答率が66.7%であり、市の平均より2.7ポイント高い。 ●単価の違う2セットから、1冊あたりの値段を算出する問題では、正答率が45.1%であり、市の平均より11.0ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どちらのセットが安いか」といった、身近な買い物を題材にした問題を通し、1冊あたりの値段(単位量)を求めて論理的に比べる力を高めていく。 ・条件の異なる複数のセットから1冊あたりの平均的な値段を求めるなど、複雑な計算の手順を、図や式を組み合わせ整理しながら解く練習を積み重ねる。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は65.1%で、市と同程度である。 ○円グラフを正しく読み取る問題では、正答率は64.7%で、市と比べて8ポイント高い。 ●値に0がある分離量の平均を求める問題では、正答率は62.7%で、市と比べて8.3ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円グラフなどの資料から必要な情報を正しく読み取る力を、社会科の学習やICT端末を用いたグラフ作成活動を通して、さらに伸ばしていく。 ・「0」を含むデータ(活動がない日など)の平均を求める際、「0」も個数に含めて計算するという概念を、図や具体物を使って整理し、正しく算出する練習を繰り返す。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.4	63.8	61.6
	生命・地球	78.4	74.1	73.3
観点別	知識・技能	81.3	73.0	71.3
	思考・判断・表現	66.4	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は71.4%で、市と比べて7.6ポイント高い。 ○ふりこの測定方法について問う問題では、正答率が76.5%であり、市の平均より14.8ポイント高い。 ○蒸発させたときに何も残らなかった水溶液に、何が溶けているかを問う問題では、正答率が60.8%であり、市の平均より29.7ポイント高い。 ●ごみ処理場での電磁石の利用方法から、電磁石の性質を問う問題では、正答率が60.8%で、市の平均より4.7ポイント低い。 ●ふりこの周期を理解し、推測した実験の結果を問う問題では、正答率が54.9%であり、市の平均より2.8ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の時間を十分に取し、必要があれば確認のための実験やその方法を考える時間を設けたことが、正答率の高さにつながった。 ・実験や自分の体験から得ることのできない情報は、映像資料を活用することで知識の定着につながることから、内容を吟味した上で、映像資料を授業に取り入れ活用する。 ・学習の振り返りや、過年度の復習問題を解く時間を確保し、知識の定着を図る。 ・押さえない大切な言葉や、図表などを意図的に使用したり、繰り返し練習問題に取り組みせたりするなどして、知識の定着を図る。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は78.4%で、市と比べて4.3ポイント高い。 ○月、太陽、地球の位置関係と、月の見える形について理解しているかを問う問題では、正答率が90.2%で、市の平均より17.7ポイント高い。 ○流れる水のはたらきでの、浸食について理解しているかを問う問題では、正答率が78.4%で、市の平均より17ポイント高い。 ●動物のからだのつくりとはたらきでの心臓と血管のはたらきを理解しているかを問う問題では、正答率が8.5%で、市の平均より5.6ポイント低い。 ●動物のからだのつくりとはたらきでの仮説を確かめる実験を構想できるかを問う問題では、正答率が60.8%で、市の平均より3.9ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月の見え方と、月、太陽、地球の位置関係を学習する際、映像資料とともにライトと模型を使って一人ずつ月の見え方を観察したことで理解が深まった。 ・校庭の砂場に流れる水の実験場を設けた。変化を実際に観察し、体験的に学習できたことが効果的だった。 ・学習の振り返りや確認の問題に取り組む時間を確保し、学習内容の定着を図る。 ・人体のつくりやはたらきを体験として理解できるよう、模型を見せたり積極的に触れさせたりしながら学習を展開する。 ・体のつくりについて保健体育や家庭科の学習と関連付けて、様々な場面で内容に触れさせていきたい。

宇都宮市立清原中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く活動を取り入れながら自分の考えをもち、主体的に取り組む児童の育成	表現力育成のため、各学年の目標に合った文章を書く活動(書くことキャンペーン)に定期的に取り組んでいる。自分の考えをきちんともてるよう、書く活動や意図的な問い返しを取り入れている。さらに、自分の考えを軸にペアやグループ学習を取り入れ、主体的・協働的に考えを深め合えるための授業づくりに努めている。自分から進んで話合いに参加できるようになるための手段の一つとして、一人一台端末の活用を意識した取り組みを行っている。	国語における「書くこと」の領域の正答率は、市の平均を上回っている。 質問項目「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」について、3、5年生は市の肯定割合を上回っているが、4、6年生は下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

書くことについて、4、5年生は市の平均の正答率を上回っている。6年生は、4月に行われた全国学力・学習状況調査の市の平均と同程度であったが、12月に行われた学習内容定着度調査では、市の平均を上回った。したがって次年度も書くことキャンペーンを継続し、表現力の向上を目指す。また、主体的な学びとなるように、単元計画や児童が課題に対して問いを追究する方法を工夫していく。さらに、ペアやグループなどで話し合う活動を取り入れ、協働的な学びの良さを実感できるようにしていく。